

made from a cultivated stock (B-357) in the greenhouse, Bot. Gard., Univ. of Tokyo (Feb. 23, 1970, Y. Ohtsuka)-holotype in TI; Dec. 28, 1970, T. Hashimoto-merotype in TI; Feb. 1, 1971, T. Hashimoto-merotype in TI.

This species is characterized by not respinate flowers among the genus. This is commonly adopted as a key feature of 'Spiranthes alliance' by orchid students. When we met with this plant at the place of collection, the leaves were spreading almost horizontally. The flowers are spicy fragrant in the early period.

* * * *

東京大学理学部附属植物園の温室で栽培されている2種類のランを新種として記載する。両種とも1965~1966年の第1次東京大学東亜関連調査団(環太平洋班)によって採集されたものである。*Pleurothallis Fumioi* は *P. pantasmoides* (ペルー産) に近いが、全体が小形、葉は細く、花卉の先が鋭い点などで区別する必要がある。ペルー南部のキンセ・ミルからさらに下った熱帯降雨林で、倒木の枝に着生していた。指種名は調査団を率いて指導をされた前川文夫教授(当時)の名に因むものである。*Spiranthes glabrescens* は葎柱を除いて無毛である。唇弁が上側に位置する特徴は属の中でも目立った性質である。ペルー中部のサン・ラモンに近い亜熱帯林中に生えていた。

□朝比奈泰彦：日本産クラドニア図集 21×29.5 cm, 34頁, 原色写真2葉, 白黒27葉, 1971年。クラドニア(ハナゴケ属)の研究は朝比奈先生の研究で飛躍的な発展をとげたことはいまさら云うまでもない。先生の御研究はもっぱら本誌上で発表されてきたが、日本の地衣Iハナゴケ属で昭和25年までの研究が集成されている。この本は難解なハナゴケ研究のバイブルとして地衣学者の間で広く使用されているが、現在は絶版でほとんど入手できない。今度のクラドニア図集はこの本の改訂版の一部として企画されたものであるが、学界の要望にこたえて図集だけが単独に出版された。

図集では、見開きの右側に写真、左側に学名があって使い易くなっている。採用された学名によって、各々のタクソンに対する朝比奈先生の考えをうかがい知ることができ、本書は単なる改訂版ではなく先生の半世紀近い研究の集大成とみる方がよいように思われる。クラドニア類はウメノキゴケ類とともに地衣類を代表する大群であるので、専門家、非専門家を問わず、地衣類に興味を持たれる方の座右の書として広くすすめたい。なお本書についての詳細は地衣類研究会(国立科学博物館内)に問い合わせ下さい。(黒川 道)